

第2回 幹事会 議事録

日 時	2016年10月27日(木) 14時00分～16時40分
場 所	伏見ライフプラザ10階 消費者研修室
議 題	1 各実行チームの2016年度上半期のふりかえりと課題 2 2016年度中間決算 3 第4期ビジョン検討会議 4 提案書 5 その他
出 席 者	(実行委員) 松本、長谷川、西野、杉野、岩崎、尹、大鹿、新海 (チーム員) 萩原 (事務局) 蒲、小木原、森、西、高木、天野、金井、丹羽
記 載 者	(事務局) 丹羽
決定事項	
<ul style="list-style-type: none"> ・第4期ビジョン事業検討会議での方向性と案は承認。 ・第4期ビジョン構想での「幹事会の役割」は以下を補足記述する。 新体制は幹事会が権力を持つ意図ではなく、各チームに自立した意思を持たせて、活性化を図るものである。幹事会は全体のマネジメント経営、プランティングを検討する機関等。 ・第4期ビジョン検討会議は、組織編制等含めると時間が必要なため継続する。 ・提案シート3事業「共育ゼミナール報告会&共育講座企画者拡大交流会」「共育講座ガイドブック制作にかかる連絡業務の外注」「集まれ！愛岐の里山たいけん隊」を承認。 ・プランタン管弦楽団ウィンターコンサート次年度以降の実施について 議論の上、挙手で採決。基本方針は次年度実施を持って終了したい旨を先方に伝え話し合う。 	
議 事	
<ul style="list-style-type: none"> ・本日の司会進行について 常任幹事 千頭委員ご欠席のため、蒲委員が代行。 ・11/14(月)全体会について 開始時間 16:00 から、会場はエコパルなごや。 <p>(1) 各実行チームの2016年度上半期のふりかえりと課題</p> <p>全体総括 各チームのふりかえりを集約して作成するため、本日は割愛。</p> <p>講座チーム 主催連続講座実施。第5回が涌井学長欠席となったため企画内容を再検討中。 共育ゼミナールは政策提言や提案を目指す方向に修正し、要項に反映。 課題は、今後の主催講座のあり方 など</p> <p>広報チーム 9月環境デーなごや中央行事に学生チームが企画した事業を展開。 関東方面への進出「エコプロ」出展に向けて企画・進行中。 課題は、学生の継続的な関わり(引継ぎ)。大学へ訪問し、事業への関わりを継続できるように依頼する等考えている。 ⇒ 大学に大学の先生(ゼミ)とNPOがつながる必要がある</p> <p>動かそう チーム エコセッションプロジェクトの成果物(マンガ)をエコパルで展示中。 描き手の学生と講座企画者とのよい交流があった。 地域に根差した協働先として南区役所と協議したが、事業は未着手である。</p>	

9月イオンモールと共催し、気候変動をテーマに展示とイベントを実施した。
ハンドブック 7月にweb上で「みんなの情報バンク」を公開した。アクセス数が多くはない。
クチーム ハンドブック改定作業準備をはじめようと考えている。

⇒広報は1回したら終わりではなく、継続的に告知するとよい。

⇒ちょっとした告知紙を作ってエコプロ等でも配布するとよいのではないか。

⇒ハンドブックに情報バンクのチラシを挟み込むとよいのでは。

- ・リソース 各チームが横断的に関わる取り組みを継続できなかった。
- マッチング 日常化を強化し、イベントとしてのリソースマッチング事業は行わない。
- 事業チーム ⇒イベントはなくなったが、本来の目的であった、なごや環境大学の一体感がどうしたらつくれるのか引き続き考えて欲しい
- ・第4期 ビジョン 後ほど議題で話すため割愛

(2) 2016年度中間決算

収入決算見込みについて 33,439,593円

支出決算見込み 33,187,600円

残額 251,993円

⇒動かそうチームの項目「無関心層へのPR」を事業実体に沿った項目名に変更してほしい

(3) 第4期ビジョン検討会議

●第3期ビジョンの評価の説明(資料3-1)

検討会議の委員で達成度を☆の数で評価した。

●第4期ビジョン案の説明(資料3-2)

事業の主な柱を推進していくため、各実行チームはそれぞれの事業方針にもとづき、着実な事業展開を図っていく。そのための新たな実施体制、意思決定機関の明確化などを盛り込んだ。

●第4期ビジョンを推進していくためのチーム体制(資料3-3)

事業の主な柱を実行チームにはめてみた。

●新しい実行体制案(資料3-4)

意識して変更したのは幹事会。組織を簡略化し、意思決定を少々明確にした。

実行チーム数は例である。すべての実行チームは期限付き設置としたい。

実行委員の任期は10年を超えることはできないとした。

第4期の検討会は全体会までとしていたが、組織編制等含めると時間が必要なため継続したい。

●第4期ビジョン推進ロードマップ(資料3-6)

(質疑)

・資料3-6 タイトル「第4期ビジョン推進ロードマップ」とあるが、新体制立ち上げまでのスケジュールではないのか ⇒そうである

・ビジョンと実行体制は別ではないのか

⇒ビジョンを達成するための実行体制に変えるということである

・資料3-2 ビジョンの「事業」と「主な柱」違いがわかりにくい。

⇒事業の柱の中に、さらにアクションプランが入るため柱と表現した。

⇒ 事業の柱にそって具体的なアクションプランを立てたら、実施体制がみえてくる。

・資料 3-3 は案でなくイメージである。チーム名を入れず ABC 等で表記したらどうか。

・資料 3-1 事業の主な柱 3. について

⇒ 経緯として補足するとリソースマッチング事業は、広報チームからの発案で、なごや環境大学全体で実施する事業としてスタートした。

・資料 3-2 事業の主な柱 7. について

⇒ ブランディングの位置に違和感がある

広報・企画・イメージ戦略は、幹事会の機能の中にあっただほうがよいのではないか。

・資料 3-4 実行体制について

⇒ 図にはないが、名古屋市がどうコミットするのか情報が欲しい。

なごや環境大学は行政の発案で生まれたものであり、行政の関与が必要不可欠であると思っている。市民のためだけの組織ではないので、名古屋市はしっかり発言するべきである。

⇒ 実施体制は新しい社会システムの構築である。難しいがしっかりつくってほしい。

⇒ 意思決定者の問題は重要である。中にいてもわからないし、外に出ると尚更わからない。昨年の 7 月 9 日付けでなごや環境大学の学長、委員長、実行委員向けに提案したことがある。しかしながら、以前提案したことへの返事がなく、誰が責任者なのかもわからない。

⇒ 新体制は幹事会が権力を持つ意図ではなく、各チームに自立した意思を持たせて、活性化を図るものである。幹事会は個々の事業をチェックするのではなく、全体のマネジメント経営、ブランディングを検討する機関となっている。

⇒ しかし、(第 4 期ビジョン会議に出席していない人に)それがうまく伝わらないんだとしたら、資料も表現を直した方がいい。全体会議のときにも誤解を招かないようにうまく意図を伝えないといけない。(第 4 期ビジョン会議のメンバーでフォロー)

⇒ 幹事にチームに属さない人が入っているのが気になる。現場を知らない人が意思決定できるのか疑問である。

⇒ 外部資金の考え方は重要である。部会等立ち上げて検討したい。

⇒ 第 4 期ビジョンが想定している(計画)期間はいつまでか。

→ 毎回ビジョンは期間が決まっていない。

→ 5 年程度が適切ではないか。

→ 名古屋市などは「10 年を目標として 5 年を目途に見直す」等の表現が多い。

・資料 3-7 2017 年度事業選定に向けた候補事業リスト

主催講座として次年度以降も実施するかを検討したいため、可能性のある全事業をあげた。

特に意見を聞きたい事業 3 つについて議論したい。

○インタープリター講座

ユニーが計画・立案・実施している。環境大学は受講生受付と当日受講者アンケートを担当

⇒ 次年度以降について新海委員がユニー側にメールで意向を伝えた段階

⇒ 11 月にユニーさんとなごや環境大学で直接話し合う場を設ける

○EPOC 講座

各企業が計画・立案・実施している。環境大学は受講生受付と当日受講者アンケートを担当

⇒まずは岩崎委員に11月のEPOC会議(11/14)で実施企業の感触を探っていただく。

○プランタン管弦楽団

過去4回実施している。環境大学が環境以外の要素を絡めてPRしてきた。

⇒名古屋市では環境とダンスを絡めたテーマに盛り上がった。音楽で何年かやったが、音楽でない要素を探ってもよいのではないか。

⇒見直しできるよい機会なので、意を決してやめてみてもいいのではないか。

プランタン継続に向けて挙手で採決(初の多数決議決)

- ① 継続しない 3
- ② 次年度は実施、その後は継続しない 4
- ③ 継続が前提 0

結論 先方と直接話し合う機会を設け、次年度は実施の方向で以後は継続でない旨を伝える。

(4) 提案シートについて

○拡大企画者交流会 → 承認

○共有講座ガイドブック編集作業一部外注について

外注費予算30万円。ガイドブック制作依頼の仕様に入れて依頼する形 → 承認

○愛岐の里山たいけん隊 → 承認

⇒子どもたちの環境学習ではあるが、諏訪町の方に喜んでいただいている事業でもある。

⇒名古屋市と環境大学がうまく協働している。よい形で継続してくれるとよいと思う。

○ガイドブックのレイアウトについて

複数の講座企画団体から1団体1ページに戻して欲しいという意見がある。

⇒昨年度意図があり変更している。意見は承知したが、変えたばかりでもあり変更はしない。

(5) その他(資料5)

国連生物多様性の10年日本委員会に認定され、認定式に出席した。

2016年度全体会

日時:11月14日(月)16:00～終了後に懇親会

会場:伏見ライフプラザ13階エコパルなごやワークショップルーム